

「聞くこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名・教材名

第3学年 知りたいことを考えて、しつもんしよう 「もっと知りたい友だちのこと」

② 単元のねらい

【思考力・判断力・表現力】

◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつことができる。 (A話すこと・聞くこと(1)エ)

○日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

(A話すこと・聞くこと(1)ア)

【知識・技能】

○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。

((1)イ)

③ 指導の工夫

本単元では「聞くこと」に焦点を当て、仲間の話を聞き、もっと知りたいことについて質問をし、心に残ったことを伝え合うという言語活動を設定しています。単元の中に、話を聞いて質問を考えることができるようになるための時間を位置付けました。

話に対する質問を考える際に、それぞれのタブレット端末で音声を聞くことができるようにしました。アプリの Teams を使って、音声ファイルを共有しました。

また、複数の音声を用意しておくことで、向上心をもって取り組むことができるようにしました。

④ 活用したツール

・ Teams

学級のチームに、授業用のチャンネルを作成し、そのチャンネルのファイルに音声データを保存しておく。

・ イヤホン

⑤ 実践内容

学習活動

1. 前時までを振り返り、本時の見通しをもつ。
2. 課題を立てる。
3. 質問の種類や質問の仕方(話し方)を確かめる。
4. 音声を聞きながら質問の内容や話し方を考える。
5. グループで交流する。
6. 質問するときの要点を確かめ、振り返りをする。



【音声を聞きながら質問の内容や話し方を考える活動】

児童の反応(ふり振り返りより)

「単元の初めにやった時より、いろいろな種類の質問を考えることができた。」

「タブレットのときは、何回も聞いたり途中で止めたりしてできた。でも、話を聞きながら質問を考えるのはまだ難しかった。」

「質問を考えることはできたけど、質問の種類が似たようになってしまった。またやりたい。」

⑥ 成果と課題(実践するときの留意点など)

○それぞれの意思で、途中で音声を止めたり、繰り返し聞いたり、聞き直したりすることができるので、その子のペースで学習活動を進めることができた。

○質問を考えることができた児童が増え、充実感を得ることができた。次への意欲を示す児童も多かった。

△最終的な出口は、実際に生身の人間から話を聞きながらできるようになることを意識すること。

△タブレット端末を活用する上で、児童は意欲的になってはいたが、活動の目的「どんな力を付けようとしているのか」を意識することができるように、事前指導が重要である。

△どんどん進めることができる児童もいるので、音声ファイルをいくつか用意する必要がある。